

巻 頭 言

愛媛大学工学部等技術部長
(工学部長) 村上 研二

愛媛大学工学部等技術部の平成23年度の活動状況をまとめた「愛媛大学工学部等技術部活動報告集 Vol. 11」を皆様方のお手許にお届けします。

昨年度の「巻頭言」で私は、平成16年度にまとめられた「今後の技術職員の在り方について（報告）」と、そこから始まった技術職員の業務に関する制度改革に触れ、現在の技術職員の職務内容は、それまでの研究室・学科を中心とする閉じられた業務環境から、よりグローバルな業務環境へ移行していること、またスキルアップ体制についても、それまでの研究室・学科を中心とした徒弟制度的な体制から、計画的・組織的なスキルアップ体制へ移行していることを述べました。そして、この業務内容・スキルアップ体制の変化に適切に応えるため、各技術職員にはそれぞれ大きな自助努力をお願いしなければならない状況となっていることを述べました。本活動報告集はその成果をまとめたものです。是非御一読いただき、工学部等技術部の活動に対して、より一層の御理解と御指導・御鞭撻をいただければ幸いです。



ところで、愛媛大学工学部等技術部は、5年前の平成19年3月に名古屋大学にて開催された大学・大学共同利用機関技術研究会運営協議会において、「平成24年度総合技術研究会」を愛媛大学にて開催したい旨名乗りを上げ、満場一致でこれが承認されました。この開催申し出ですが、上で述べた業務のグローバル化や組織的なスキルアップを意識したものであったのかどうかについては、当時の関係者に直接確かめた訳ではありませんので定かではありませんが、全国規模の大会であり、500件以上の研究発表と1000人近くの参加者が予想される「平成24年度総合技術研究会」を愛媛大学において開催するという事は、結果として、上で述べた業務のグローバル化や組織的なスキルアップに繋がる成果が得られることは間違いないでしょう。

平成25年3月の研究会開催まで2年を切った平成23年6月、愛媛大学工学部等技術部はその本格的な準備に入りました。技術部職員が自らの意思で開催を決め、その準備に一丸となって邁進することは恐らく愛媛大学工学部等技術部始まって以来のことと思われまます。これまでこの種の大会運営に経験の無い技術部職員がこの大会を成功させるためには、構成員全員の協力の下、綿密な行動計画と組織作り、そしてその着実な実行が不可欠です。愛媛大学らしいすばらしい大会運営がなされ、本研究会が成功裏に終わることを願うとともに、本研究会を主宰したことから得られる有形・無形の財産を一過性のものとせず、その後の業務ならびにスキルアップに役立てられることを切に願っているところであります。教員、事務職員の皆様には、いろいろ御迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、愛媛大学工学部等技術部が主催する「平成24年度総合技術研究会」の意義を御理解いただき、御支援を賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げる次第であります。